

Keiba Global Front Line



競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介致します

倉田 直弘

欧洲のトップホースに加えて、北米から昨年の年度代表馬カリフォルニアーム(牡4)、豪州からザチャンピオンシップスのG1クライエンエリザベスS(芝2000m)優勝馬クライティリオン(牡4)、そして日本から昨年の秋の天皇賞(芝2000m)勝ち馬スピルバーグ(牡6)が参戦。過去最高のメンバーによる究極の一戦になると言われているのが、ロイヤルアスコット2日目(6月17日)に組まれたG1プリシスオヴウェールズS(芝10F)である。各国から錚々たる顔ぶれが集う中、5月8日時点ではプリンシスオヴウェールズSの前売り1番人気に推されているフリーイーグル(牡4)と、この馬を管理するダーモット・ウエルド調教師を、今月のこのコラムでご紹介したい。

なると言われているのが、ロイヤルアスコット2日目(6月17日)に組まれたG1プリ
ンスオブウェールズS(芝10F)である。各
国から鋒々たる顔ぶれが集う中、5月8
日時点ではプリンスオブウェールズSの前
売り1番人気に推されているフリーアイ
グル(牡4)と、この馬を管理するダーモッ
ト・ウエルド調教師を、今月のこのコラム
でご紹介したい。

である。更に、祖母トラスティッドパートナーアイズ（芝8F）でデビューし、そこを5馬身半差で制して初勝利。次走のG3CBCジュヴェナイルターフトライアル（芝8F）では、3歳時に英愛ダービーに加えてGインターナショナルS（芝10F88ヤード）を制することになるオーストラリアと顔が合って2着に敗れたが、この世代のトップグループにいる1頭との評価を得て2歳シーズンを終えている。

クラシックの前売りでも上位人気にいたのだが、一頓挫も二頓挫もあって、3歳春のクラシックを全休。ようやくファンの前に姿を現したのが昨年の9月で、1年ぶりの復帰戦となつたレペーズタウンの3エンタープライズS（＝旧名キルターナンS、芝10F）を7馬身差で快勝。一時は凱旋門賞出走も取沙汰されたが、結局は10F路線の総決算G1チャンピオンズS（芝10F）に向かい、ノーブルミッションの3着となつて3歳シーズンを終えている。

すなわち、明けて4歳を迎えるながら、まだ4戦しか走っていないのがフリーイーゲルルなのである。

馬が若いうちは無理をさせないというのは、管理調教師ダメモット・ウェルドの真骨頂だ。だからウエルド厩舎には、古

クラシックの前売りでも上位人気にいたのだが、一頓挫も二頓挫もあつて、3歳春のクラシックを全休。ようやくファンの前に姿を現したのが昨年の9月で、1年ぶりの復帰戦となつたレペーズタウンのG3エントープライズS（旧名キルターーンS、芝10F）を7馬身差で快勝。一時は凱旋門賞出走も取沙汰されたが、結局は10F路線の総決算G1チャンピオンSに向かい、ノーブルミッシンヨンの3着となつて3歳シーズンを終えている。

すなわち、明けて4歳を迎えるながら、まだ4戦しか走っていないのがフリーイーゲルなのである。

である。更に、祖母トラスティッドパートナーハーはG1愛千ギーチ勝ち馬だ。
2歳8月にレペーズタウンのメイドン、(芝8F)でデビューし、これを5馬身半差で制して初勝利。次走のG3BCGジュヴェナイルターフトライアル(芝8F)では、3歳時に英愛ダービーに加えてGインターナショナルS(芝10F88Y)を制することになるオーストラリアと顔が合つて2着に敗れたが、この世代のトップグループにいる1頭との評価を得て2歳シーズンを終えている。

馬になつて長持ちする馬が多いのである。例えばウエルド師が手がけた代表馬で、歐州調教馬として初めて豪州のメルボルンCを制したヴィンシテージクロップも、デビューしたのは4歳の秋で、6歳秋にメルボルンCを制し、8歳秋のメルボルンCでも3着となつてゐる。

ウエルド厩舎の今年の4歳世代には、今季緒戦のLRヘリティジS(芝8F)、続くG3ムーアズブリッジS(芝10F)を連勝しているファッショニイティングロック(牡4)がいるのだが、この馬も昨年6月のG1愛ダービーで5着に敗れると、シーズン後半のビッグレースには見向きもせずに休養に、今シーズンに備えた馬であつた。4歳世代にフリーアイグルとファッショニングロックという2枚看板がいるのに加え、ウエルド厩舎には3歳世代にもデビューから2戦2勝で英國ダービーの前売り1番人気(5月8日現在)に推されているゾウラック(牡3)、G3レバーズタウン1000ギニートライアル(芝7F)を勝ったストームフライ(牝3)があり、厩舎全体が勢いに乗つてゐる状態にある。

まずは、フリーアイグルの今季緒戦となる、5月24日にカラで行われるG1タソールズGC(芝10F110y)が、日本のファンにとっても目の離せない一戦となるのである。

愛ダービーで5着に敗れると、シーズン後半のビッグレースには見向きもせずに休養に、今シーズンに備えた馬であった。4歳世代にフリーイーグルとファッショナイティングロックという2枚看板がいるのに加え、ウエルド厩舎には3歳世代においてデビューから2戦2勝で英國ダービーの前売り1番人気（5月8日現在）に推されているゾウラック（牡3）、G3レバーズタウン10000ギニートライアル（芝7F）を勝ったストームフライ（牡3）があり、厩舎全体が勢いに乗っている状態にある。

まずは、フリーイーグルの今季緒戦となる、5月24日にカラで行われるG1タ

馬になつて長持ちする馬が多いのである。例えばウェルド師が手がけた代表馬で、歐州調教馬として初めて豪州のメルボルンCを制したヴィンシテージクロップも、デビューしたのは4歳の秋で、6歳秋にメルボルンCを制し、8歳秋のメルボルンCでも3着となつている。

ウエルド厩舎の今年の4歳世代には、今季緒戦のLRヘリティージS(芝10F)、続くG3ムーアズブリッジS(芝10F)を連勝しているファッショネイティングロック(牡4)がいるのだが、この馬も昨年6月のG1

Keiba Global Front Line